

令和6年4月17日

学校法人和風会
多摩リハビリテーション学院専門学校
学院長 林 義巳 殿

学校関係者評価委員会
委員長 鈴木 康雄

学校関係者評価委員会報告

令和5年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告いたします。

記

1. 学校関係者評価委員

委員長：鈴木康雄（医療法人社団和風会リハビリテーション部長）

委員：池田健祐（所沢リハビリテーション病院 技士長）

奥山浩太（所沢中央病院 技士長）

加藤哲禎（老人保健施設メディケア梅の園 事務長）

高木博之（所沢リハビリテーション病院 事務長）

竹田陽介（多摩リハビリテーション病院 技士長）

人見太一（杏林大学保健学部）

2. 学校関係者評価委員会の開催状況

第1回委員会：令和6年3月14日（木）〔自己評価報告と依頼〕

第2回委員会：令和6年3月30日（土）〔メールにて各委員からの評価結果集約〕

3. 学校関係者評価 結果報告

別紙のとおり

以上

令和5年度 学校関係者評価 結果

重点目標

テーマ：全学科定員充足、国家試験全員合格に向けて

1. 入学者の定員充足、2. 国家試験合格率 90%、3. 退学者の減少（退学率 5%）

評価基準 1：教育理念・目標

- 概ね適切である

コメント

教育理念・目標についてはホームページ上で公開されている。医療福祉の精神がしっかりと反映され、求める人材像も明確化されている。情報公開への意識の高さが伺え、受験生や保護者にとって、学校選びの際に非常に重要な情報と感じた。令和 6 年度から 4 つのポリシーを含めて新たな理念、目標を掲げている。実務が伴っていなければ意味がない。常に掲げた理念、目標に立ち返る意識をもって教職員が業務にあたることが大切である。

外国人留学生にも教育理念・目標などが、しっかりと理解できるよう指導して欲しい。

新型コロナウイルスが 5 類に移行して 2 年目を迎え、保護者とコミュニケーションをとる機会を増やす取り組みが必要である。4 つのポリシーそれぞれの内容を学生・保護者と共有し、適正な人材育成に努めてほしい。

評価基準 2：学校運営

- 適切である

コメント

順調に ICT のハード面は整備されてきている。臨床実習など学外の学習指導などでも積極的に ICT 活用を進めてほしい。留学生や職業訓練生への対応を行っていることから、業務量の増加が余儀なくされている。例年課題となっている業務の効率化においては日々の業務変化に対応できるよう常に意見の収集に努め、情報システム委員会において迅速に実行してもらいたい。教職員の ICT 活用状況の把握、利用促進のための研修、サポート体制などの検討が必要である。業務のスリム化は重要だが、業務の質が下がらないよう協議も必要である。

組織整備等意思決定システムの整備においては各会議、委員会を実施している。昨年度同様に各職員への周知が重要と思われる。

学院長や事務長との個別面談を通じて、教職員が意見交換や相談の機会を持つことも、組織のコミュニケーションを強化し、より良い環境を作り上げるために重要である。個別面談は第 3 者が加わることでより具体的に職員の意見が聞き取れると思う。

新年度に向けて、災害対応だけでなく、学校運営の危機管理マニュアルの作成を行っている点は、安全な学校運営への意識の高さが伺える。

学校運営に関しては教学と事務運営の協働が重要である。本学においてはコンパクトな学校の利点を活かして教職員が情報を共有し、各自の役割を理解して一体感のある運営が出来ている。

評価基準3：教育活動

適切である

コメント

教育活動の取り組みについて、非常に評価できる。特に、学生のニーズに応じてアドミッションポリシーと教育方針を明確に掲げるという考え方は、学校の先駆的な姿勢を示している。また、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、アセスメントポリシーの見直しと作成は、教育内容の質向上と学生の学びの成果の明確化に貢献できると感じる。

現在は、生徒のスキルに合わせて教育できている。学生の意識や気質等の変化に戸惑う場面があるが、最終的に学生個々の各分野を志す気持ちを上手に伸ばして国家試験合格に導いている。

今後、入試制度の変更や海外留学生が増えていく中で、さらに学生の学力や学習意欲など個人差が生じてくることが推測できる。個人の能力に合った学習指導を行い、国家試験対策も早い段階から取り組む必要があると感じる。

学生が行う授業評価アンケートは評価できる。職員の質的向上に向けた取り組み、外部講師を招いての職員研修などを実施していただけたらと思う。実施時期を含め更に検証を期待する。

評価基準4：学生指導等

適切である

コメント

カウンセリング担当教員が常勤しており、カウンセリングを受ける環境が整っていることは適切である。

発達障がいのある学生支援についても、合理的配慮の申請を行い、認可されれば授業での配慮を行っている。新たな試みであり、学生の個性を尊重し、潜在能力を最大限に引き出す効果があると考えられる。学生の能力を十分に発揮できるような環境づくりに尽力している様子が伺える。必要な指導を遠慮することがないようお願いしたい。学内でのトラブルについて丁寧に指導されている。結果、学生からのハラスメント事案は皆無となっている。

基本的な生活習慣の確立においては保護者の協力が重要である。積極的に保護者とコミュニケーションをとり、情報共有などの取り組みを行ってほしい。

最近、他校では就職説明会が6月からと就職支援の活動が早くなってきている。早めの就職指導を実施していく必要がある。

評価基準5：特別活動等

概ね適切である

コメント

コロナ禍以降、努力されている。実習前の学生はまだ感染に対して注意が必要なこともあり積極的な

特別活動は行えないこともある。時期の考慮や感染対策を行い、学生の主体性も考慮しながら、特別活動・クラブ活動の開催を積極的に認可していただきたい。

学園祭、バーベキュー等のレクリエーション活動を通じた課外活動を実施して学生間、教員と学生間のコミュニケーション強化に役立っている。教員主導型の文化祭を開催することによって、地域交流や多世代交流を促進する機会になっている。国際色豊かな良い文化祭であった。地域の皆さんにも認知される良い機会だと思うので、今後も広報をしっかりと継続してほしい。

課題として文化祭やクラブ活動は教員の負担が大きくなるよう学生の自主性・主体性を尊重しながら、教員の負担を軽減する方法を検討する必要があると感じた。諸活動に際しアンケート調査等で検証も必要である。

評価基準6：学修成果

適切である

コメント

国家試験の合格率が3学科ともに全国平均を超えていることは非常に評価できる。貴学の合格率の向上や卒業後のキャリア形成に関する取り組みが非常に適切であり、学生の成長と将来の成功に向けたサポートが行われていることが伺える。一方、学科ごとに合格率の違いがあり、教員の負担度の可視化や効率的な指導方法の向上に向けて、教員の対応の量や質が反映されているかしっかり調査していく必要がある。既卒者の合格率は他の養成校も課題であると思われるが今後の対策に期待する。

留年や退学者が最小限に抑えるよう教育体制づくりをされている。国家試験の合格率も重要であるはあるが、今後多くの学生が国家試験にチャレンジできるような取り組みを希望する。

新たに作成したアセスメントポリシーに基づき、卒業後のキャリア形成に役立つ教育活動を展開する計画は、学生にとって大きなメリットと感じる。その反面、アセスメントポリシーをどのように具体的な教育活動に落とし込むのか、詳細な計画の難しさを感じる。

実習や卒後に精神面の悩みを多く抱える事象が増えている。在学中や卒後にメンタルヘルスケアができる体制づくりをして退学や退職にならないフォローをしてほしい。卒業生の後追い調査は難しいため、同窓会など中身を魅力的なものにし繋がりを作ってください。

評価基準7：学生支援

概ね適切である

コメント

学生の経済的支援について細かく配慮されている。東京都産業労働局（ハローワーク）が募集する専門人材育成訓練の委託を受ける取り組みは、多くの社会人のスキルアップやキャリア形成にとって非常に有益なものである。グループ法人の奨学金制度等もあり、幅広い学生層をサポートしている点が素晴らしい。奨学金制度では、対象学生の選定方法の検討が必要である。

多摩リハの特色を生かした在学中や卒業後の支援なども充実を図るとともに、ホームページなどでの公開や周知をし、学生確保の一つとして検討していただきたい。

病気やけが等で修学に困難な学生にも丁寧にして、安易に退学しない様な支援を施している。その結果として退学率も他の専修学校の平均と比較して少ない学校となっている。

評価基準 8：教育環境

適切である

コメント

施設改修による環境整備や学習に必要な備品を購入され、積極的に学習環境の整備がされている。直近では貴重品ロッカーを2台設置した他、学院ホールのトイレリフォームを行っている。

学習教材器具備品については教育環境助成金を利用して入れ替えている。最新機器の導入を積極的に行っていることは評価できる。学生に周知をし、利用を促すと共に、学生のニーズに柔軟に対応できる環境づくりに取り組んでもらいたい。また、実習施設についても十分に教育体制が整備されているか検証してほしい。

防災訓練の実施内容を定期的に見直し、学生アンケートや教員会議などで意見を集約し、課題解決に向けた具体的な取り組みを検討する。計画策定時には、学生や教職員からの意見を積極的に取り入れる。

評価基準 9：学生募集

一部改善すれば適切である

コメント

学生募集に関する取り組みや入試の改善に対して、適切な対応が行われている。学生募集については、学校訪問や体験会や SNS など動画の配信など工夫されている。そのような情報発信が入学に繋がっているか検証を行ってほしい。学生確保が困難な状況で工夫しているが、実数が確保できるか課題がある。生徒数の確保が第一優先であるが、総合型選抜入試は、退学者増、国家試験合格率減につながる一因子と考える。質的側面を担保することも検討頂きたい。

今後ますます進行する少子化に対して18歳の生徒だけでなく、社会人や外国人留学生等を受け入れて教育する事も重要と考えている。介護学科以外でも外国人の受け入れを積極的に出来るような検討を期待する。

都の委託訓練制度、教育訓練給付制度、介護福祉士修学資金等各種制度を広報し学生募集することが重要である。学校独自の学費サポート、4学科の併願制度等、学生ニーズに合わせた取り組みを行っている点は、学生の満足度向上に繋がる。

評価基準 10：財務

概ね適切である

コメント

ホームページにて財務情報が公開され適切に管理されている。この取り組みは、財務状況の透明性

を確保する上で非常に適切である。学校法人の理事会・評議員会での報告や内部の教職員向けの業務報告会により、関係者に財務状況について適切な情報が提供されている。学校法人後5年間の事業収支では、一度も経常収支はマイナスになったことは無く適切である。

教職員の財務状況への理解度を高めるために教職員が気軽に質問や意見を言えるような双方向的なコミュニケーションの場を設けることで、より深い理解と参加意識を促進していく。

評価基準 11：法令等の遵守

適切である

コメント

学生の成績や出席状況の管理に関しては、適切なシステムが導入されており、情報の保護にも十分な配慮がなされている。学生個人のメールアドレスが与えられており、プライベートのメールと区別されていて情報管理はできている。

紙媒体の使用・SNS の教員間での情報共有は、ガイドラインが必要である。情報セキュリティに関する研修を学生・教員向けに定期的実施する等の対策も必要である。

学習状況の共有は必要なので、ICTを進めていく中で、学生カルテのようなものを電子管理できると良い。

評価基準 12：社会貢献・地域貢献

適切である

コメント

地域貢献の推進や教職員の協力姿勢に対して、適切な取り組みが行われている。今年度のタマリハ博覧会は予想を超える数の地域住民が参加するなど長年にわたる学院の地域貢献が評価された結果と思われる。タマリハセミナー等公開講座や講師派遣による地域アプローチが図られている。これからも地域住民や関係機関との定期的な意見交換会やアンケート調査を実施し、地域社会のニーズに合った取りくみやイベント、体験会を増やしてほしい。奥多摩駅伝や青梅マラソン大会などの地域の方や高校生などが参加されるスポーツイベントで、ストレッチブース（トレーナー的な）などメディカルサポートとしての参画ができないか検討も良いと思われる。

地域活動、または職能団体への協力は非常に大切だが、関わっている職員の負担過多にならないよう進めて頂きたい。